

まちづくりにおける公共性と精神性に関する基礎的な考察

岐阜大学 正会員 秋山 孝正
岐阜大学 正会員 奥嶋 政嗣

1. はじめに

一般に都市計画では公共的な都市施設の運用が検討され、一方で都市交通計画においては、交通基盤施設の有効利用が検討される。このとき、若年層において、いわゆる理工系離れと社会基盤に関するイメージの低迷から、土木技術者を目指す意識の高揚は期待できない実情である。このような現代的背景において、まちづくりに関して公共意識をもち、アイデンティティを確立した専門的な技術者が育成されることが危惧される。このため本研究では、精神分析的方法から将来の土木技術者の育成を念頭において、人格の精神的な類型化をめざすとともに、人格障害の概念からまちづくりの理念に関する具体的な分析を行う。

2. 現代社会の複雑化と精神性

すでに多数の分野において論評されているように、現代社会は、①膨大な情報を処理する必要性と多様な社会構造への対応が困難となっており、②情報化・電子化の進展から意識構造自体がデジタル化している、さらに、③バーチャルな仮想現実表現が一般的となり現実感の欠如を生じている。このような現代社会の複雑性から、土木技術者においてもアイデンティティの拡散など、現代的な意味での内面的な問題（人格障害）が発生するケースが多いものと考えられる。

現代的な精神病態として、神経症と精神病の境界領域の症状を境界例とよび、最も代表的な障害に「境界性人格障害」（Borderline Personality Disorder :BPD）が知られている。現在わが国では人口の約2%（約250万人）が境界性人格障害であるといわれている¹⁾。

米国精神医学会によるDSM-IV（Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders）の判定によれば、図-1のように整理されている。この判定基準の項目3で「自己同一性の障害」は、この障害の主要特徴であるといえる。すなわち、「自分が何であるかわからない」「自分が存在している実感がわからない」「本物の自分がつかめない」などの感覚が生じる。この結果として、現実を吟味する能力に乏しく、仕事に不満を持ち

成人期早期に始まり、様々な状況で明らかになる、対人関係、自己像、感情の不安定および著しい衝動性の広範な様式で以下のうち5つ（またはそれ以上）で示される。

- 1). 現実、または想像の中で見捨てられることを避けようとする気違いじみた努力。
- 2). 理想化と脱価値化との両極端を揺れ動くことによって特徴づけられる不安定で激しい対人関係様式。
- 3). 同一性障害：著名で持続的な不安定な自己像や自己観。
- 4). 自己を傷つける可能性のある衝動性で、少なくとも2つの領域にわたるもの。

（例：浪費、性行為、物質濫用、無謀な運転、むちゃ食い）

- 5). 自殺の行為、そぶり、脅し、または自傷行為のくり返し。

- 6). 顕著な気分反応性による感情不安定性。

（例：通常は2～3時間持続し、2～3日以上持続することはまれな強い気分変動、いらいら、または不安）。

- 7). 慢性的な空虚感。

- 8). 不適切で激しい怒り、または怒りの制御の困難。（例：しばしばかんしゃくを起こす、いつも怒っている、取っ組み合いのけんかをくり返す）

- 9). 一過性のストレス関連性の妄想様観念、または重篤な解離性症状。

図-1 境界性人格障害の判定基準²⁾

やすく、転職を繰り返す場合も発生する³⁾。通常は社会適応も良好に見えるが、大きな心理的ストレスが加わると、たちまち対人関係は乱れる。相手に対する評価が瞬時に逆転し、楽しい気分から突然攻撃的になるなど感情が激しく鋭角的に変化し、周囲は振り回される。時々気分は明るそうでも、基本的な感情は常に軽い抑うつと不安に満ちている。また行動化（内面的な欲動を直接行動により示すこと）が多くみられる。また「人格障害」に分類される障害には、BPDの他にも「自己愛性人格障害」「演技性人格障害」「回避性人格障害」「強迫性人格障害」など同様のパーソナリティの障害が知られている。ここでは、上記のBPDとあわせて、「自己愛性人格障害」（自己愛的であり、空想型で特権意識があり、他人との共感に乏しい：BPD同様に、DSMにおいては9項目の判定基準を持つ）を取り上げて、具体的な調査結果と分析結果の紹介を行う。

3. 土木技術者パーソナリティの調査

ここでは、土木技術者のパーソナリティ調査として、社会基盤関係の専門教育科目を受講している大学生を将来的な技術者希望の者として取りあげた。具体的には、都市計画関連講義を受講した大学生に対して「パーソナリティ調査」を実行した。ここで具体的な調査として、「境界性人格障害」と「自己愛性人格障害」の判定項目（各9項目）をとりあげ、個別の質問形式で構成し、被験者が各項目に○、×を付す方法で行うものである。したがって、各人格障害について判定基準はさきのDSMによる「5項目以上」の場合に、各障害の可能性を規定するものである¹⁾。

今回、大学生59名を対象に調査を行った結果を項目別に修正したものが表-1である。反応割合の最も高い質問番号3は、「自己愛性人格障害」の自分は重要でユニークな存在であり、成功・地位や権力の上昇、才気や美貌などへの空想にとらわれていることを示している。一方で、質問番号6は、「境界性人格障害」の自己同一性障害に対応している。多数のものが「自分はいったいどういう人間なのかわからない」状態にあり、他人との関係を確立できないアイデンティティの拡散が生じている。これらのことから、土木技術的知識を学習している集団においても、内面的な意味では公共的意識や土木技術者意識が体験的に形成される状況とはいえないことがわかる。

また、「境界性人格障害」と「自己愛性人格障害」に関する反応項目得点の分布を示したものが、図-2である。いずれの人格障害においても、5項目以上で障害の可能性が判断される。アイデンティティの拡散に対応して、境界性では比較的多数の人格障害可能性が示されている。また人格障害は特定の障害だけに規定されることは少なく、複数の障害の可能性を持つことがこの図からもわかる。特に「境界性人格障害」と「自己愛性人格障害」においては類似性や関連性が指摘されており、両軸ともに5項目以上に反応している（すなわち同時に複数の人格障害の可能性をもつ）個体も比較的多数散見される。これらは、一般の社会的精神風土が大局的に変化していることを示すものではないかと思われる。もちろん今回の質問のみで全般的判断を行うことは早計であるが、将来における土木技術者の公共性・精神性を育成する上で重要な問題提起を含む結果であるといえる。

表-1 反応項目別集計結果

問題番号	応答数	比率	項目
1	18	30.5%	N
2	24	40.7%	B
3	33	55.9%	N
4	22	37.3%	B
5	0	0.0%	N
6	30	50.8%	B
7	15	25.4%	N
8	16	27.1%	B
9	16	27.1%	N
10	3	5.1%	B
11	15	25.4%	N
12	26	44.1%	B
13	12	20.3%	N
14	18	30.5%	B
15	13	22.0%	N
16	15	25.4%	B
17	8	13.6%	N
18	4	6.8%	B

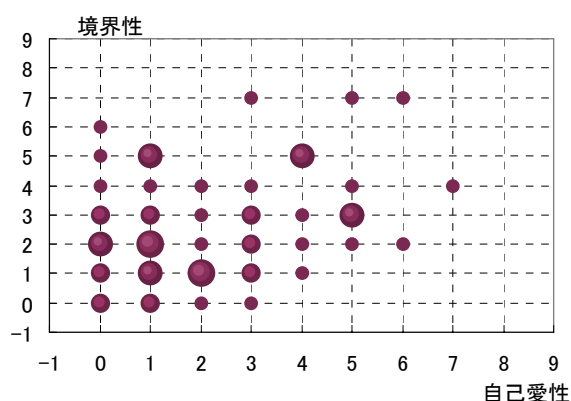


図-2 人格障害判定結果の分布

4. おわりに

本研究においては、土木技術者の精神性を理解するために、現代的問題である「人格障害」を取り上げて具体的な検討を行った。都市計画の具体化として、昨今では「住民参加を基本としたまちづくり」などが提唱されている。しかしながら、複雑な時代背景により、土木技術者の基本的アイデンティティの形成に問題が生じているように思われる。これらはもっぱら社会的問題として位置づけられることが多い。しかしながら、まちづくりの議論の基本的部分として、まちづくりに関与する人々の公共性・精神性を精神医学的な見地から再考する必要があるのではないかとと思われる。

【参考文献】

- 1) 岡田尊司：パーソナリティ障害，PHP 新書，2004.
- 2) 平井孝男：境界例の治療ポイント，創元社，2002.
- 3) 米国精神医学会編，高橋三郎，大野裕，染矢俊幸訳，DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引，医学書院，2003.